

にっせんかい

日扇会ニュース



vol.61

2024年

地域の皆様と日扇会の意見交換・情報提供のための紙面です



(花桃の里 撮影者：sin10)

日曜診療のお知らせ

当院外来では、毎月第1日曜日と、第3日曜日に外来診療（内科と整形外科）を実施しており、内科は八辻院長、整形外科は専門医の初見医師が担当しております。

一方、当院は救急指定病院でもあります。これからはじまる花粉症や夏場の「熱中症」などは、早めの治療が有効だといわれております。

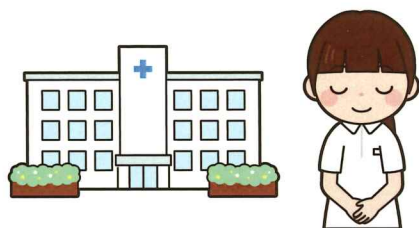
上記、日曜日の診療時間は両料とも、午前中（9：00～12：00）とさせていただきます。また、「薬」の処方等があった場合でも、すぐ近くの薬局をご利用いただけますので、ご安心ください。



いつも地域の皆さまの心の拠り所となる病院でありたい！

辰年は陽の気が動いて万物が振動するので、活力旺盛になって大きく成長し、形が整う年だといわれています。

そんななか、縁があり2024年1月、日扇会第一病院に看護部長として着任いたしました栗原サキ子でございます。皆さま、どうぞよろしく願い申し上げます。



1. 私は、長い間地域医療に携わり自治体病院や民間病院で勤務してまいりました。人生100年時代といわれる昨今、地域での保健活動や病院を訪れていただく方々、そして、入院患者の皆さまとの関わりを通して—特に高齢の方々への医療の在り方、看護の役割について考え、お役にたつよう実践してまいりました。

2. そこで、私は当院を身近な病院として訪れていただく地域の皆さまに、より丁寧な医療を享受でき、不安なく帰路についていただくということを目標に致したいと思っております。

また、近年の医療制度は、入院期間の適切さも示され、入院を可能な限り短く、できるだけ長く在宅での療養となるようなシステムになっております。当院は、そのような中で長い歴史を経て「地

域包括療養支援」に取り組んできております。私は、その取り組みの一員—看護の専門家として当院が地域のみなさまにとって心の拠り所となりますよう、更なる「チーム医療の充実」に取り組むつもりです。



看護部長
栗原サキ子

(ご参考)

チーム医療とは患者さん1人に対して、その状態にあわせて医師や看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、リハビリ、栄養士、検査技師などの医療従事者がチームを組んで、治療・看護・介護にあたることをいいます。その効果としては、患者さんの重症化の予防や生活の質の向上が期待できます。

3. 以上のように私共医療者の役割は、患者さんお一人おひとりについて適切な医療と、在宅療養でのご本人の希望に応じた暮らしが可能となるよう、ご支援することと認識しております。したがって、地域の患者さん・ご家族の種々のお困りごとやご希望に応えられますよう、日々努めてまいり所存です。と同時に、看護部門の責任者として当院の職員が日扇会第一病院の職員であることに誇りを持てるよう、働きやすい職場づくりを当院「理念」に基づき実践してまいりたいと思っております。



介護サービスのお話しです

目黒区日扇会在宅介護支援センター 主任介護支援専門員 高橋 澄代

私の肩書は硬い名称ですが、一般的にはケアマネジャーと呼ばれています。

ご存じの方も多いと思いますが、ケアマネジャーは要支援・要介護認定者およびそのご家族からの相談を受け、福祉・医療・保健のサービスとを結ぶ「架け橋」を担う役割を担っております。その主たる任務は下記1、2、の通りです。



1. その1つは、ケアプラン（介護サービスをうける計画書）の作成と、3年ごとに変わる介護保険制度による介護給付金の管理です。ご相談された方（主に高齢者）が抱える課題を十分把握したうえで、極力自立した日常生活を送れるような介護支援プランをたてます。そして実際に介護に携わる事業所に対して介護給付が行われるように、国民健康保険団体連合会に必要書類を提出いたしております。

2. 2つ目は、ご相談をうけた方の目的にあった事業所の情報をご提供することです。

ご利用者、介護者が抱える課題（ニーズ）は、人それぞれ違います。したがって、ご利用者と十分話し合ったうえ最適と思われる事業所をご紹介します。

加えて、ご利用者は事業者要望や苦情を直接伝えにくい場合があり、そのようなときは私どもケアマネジャーがご利用者に代わって事業所に意見を伝えたり、又は事業所の考えをご利用者に伝えたりなど、その調整役も務めております。

3. 私たちの職務の基本は以上の通りですが、近年は超少子高齢化、生産人口の減少などの影響もありヤングケアラー、障害者、生活困窮者、引きこもりなど（8050問題）介護するご家族の問題も増えてきております。更には、災害時の「要支援配慮者」対応、ご利用者の最期を如何に考えるかというACP（意思決定支援）も私たちが取り組んでおります課題の一つです。

したがって、介護保険制度だけに頼らず制度以外の情報を最大限活用したケアプランの立案も求められています。

4. ここで当支援センターの立ち位置を少しお話ししたいと思います。私どもは目黒区西部地区の居宅介護支援事業者（21事業所）の1つですが、地区の幹事会や研修でホスト役を務めることも増え、少しずつ成長してきていると思っております。加えて、私どもには「日扇会第一病院」という母体が有ります。外来は勿論のこと、入院が必要になった場合などでも素早い対応が可能です。今までの体験から、母体との協力体制については、皆様から高い評価をいただいていると感じております。

限られた紙面でのお話しになりましたが、ご利用者の課題（ニーズ）は山積しております。その中であって私ども介護支援専門員はその一つひとつに真摯に対応し、少しでも安心した日常生活を送って戴けるよう適切なケアプランを提供して、ご支援して参りたいと思っております。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

ニーズに対応した
ケアプラン

